

令和2年度「公立大学法人広島市立大学の業務実績に係る評価結果」における評価委員会意見の反映状況について

区分	小項目（評価委員会による評価）		評価委員会意見の反映状況
	評価委員会による意見・コメント等	掲載頁	
教育研究等の質の向上	研究活動の活性化（B）		<p>科研費を含めた外部資金の獲得増加に向けて、科研費獲得教員にインセンティブを与える環境整備から、技術相談や共同研究等のコーディネートなどの地道な取組まで様々実施しているが、獲得実績は減少傾向となっており、重要課題の一つであると認識している。令和4年度に、新たな科研費獲得支援として、専門業者による科研費申請支援制度を開始しているほか、社会連携センターのコーディネート業務を担う職員を1名から2名体制とし、相談支援体制の充実・強化を図っている。</p>
	<p>○ 科研費の採択に結実するように一層の創意工夫を期待する。</p> <p>○ 外部資金を獲得しにくい学部も多いが、外部資金の獲得数、特に大型研究費の獲得が少ない。</p>	43	
業務内容の改善及び効率化等	機動的かつ効率的な運営体制の構築（A）		<p>業務・サービスのデジタル化を推進するため、令和3年4月に各部門の職員で構成する「業務・サービスDXワーキンググループ」を設置し、大学業務の効率化・改善に組織横断的に取り組んでいる。令和3年度では、事務を遂行する上での問題点の抽出・整理や業務のシステム化、外部委託化などの改善方法の仕分け等を実施した。</p> <p>令和3年度に、IRの情報収集・分析に係る作業効率化に向けた取組の一つとして、既存の学内の各種システムを紐づけた統合データベース（簡易EAI）の構築を行った。また、令和4年度に、教学を含めた大学運営全般にわたるIRの推進等の体制強化を図るため、専任講師（教学企画・IR担当）及び特任助教（IR担当）を任用し、副理事等から依頼があったIR分析に対応するとともに、分析結果をフィードバックしている。</p>
	<p>○ デジタル化による業務運営の効率化、IRによる教育・研究の可視化を更に進めてほしい。</p>	57	
	その他業務運営（C）		64
<p>○ 施設・設備の維持保全、安全衛生管理等に着実に取り組んでいる。ハラスメントの再発防止に取り組むことが必要である。</p> <p>○ ハラスメント事案を契機に、ハラスメント根絶宣言を発出するのみならず、ハラスメント防止委員会の常設化などを行ったが、一方で新たなハラスメント事案が発生したことは残念である。対応法にも改善があるように感じる。</p>			